

特別企画：神奈川県内に本店を置く 8 信用金庫 預金・貸出金調査（2020 年 3 月期）

貸出金合計は 4 兆 2568 億円、前年比 2.47%増

～貸出金残高トップは「川崎信金」、増加率トップは「中南信金」～

はじめに

10 月 1 日、長崎県を基盤とする「十八銀行」と「親和銀行」が合併し「十八親和銀行」が誕生した。来年 1 月には、新潟県を基盤とする「第四銀行」と「北越銀行」の合併も予定されるなど、引き続き地方銀行を中心に再編機運が高まっている。こうしたなか、信用金庫でも今年 1 月に宮崎県で「宮崎都城信用金庫」と「南郷信用金庫」が合併し「宮崎第一信用金庫」が誕生したほか、9 月には石川県で「北陸信用金庫」と「鶴来信用金庫」が合併し「はくさん信用金庫」が誕生している。

帝国データバンクでは、神奈川県内に本店を置く 8 の信用金庫の「預金積金残高」「貸出金残高」「自己資本比率」「金融再生法上の不良債権」の推移について調査した。

調査結果（要旨）

1. 2020 年 3 月末時点での神奈川県内に本店を置く 8 金庫の預金積金残高の合計は、8 兆 1868 億 4000 万円（前年比 3.13%増）。8 金庫すべてで増加した
2. 2020 年 3 月末時点での 8 金庫の貸出金残高の合計は、4 兆 2568 億 1200 万円。前年比で 2.47%増となり、8 金庫すべてで増加した
3. 2020 年 3 月末時点での 8 金庫の平均自己資本比率は 10.50%。前年比で 0.26 ポイント減となり、8 金庫中 5 金庫で減少した
4. 2020 年 3 月末時点での 8 金庫の金融再生法上の不良債権の合計は 2134 億 9600 万円で、前年比で 39 億 3100 万円増加した

8 金庫の貸出金残高（増減率順）

金庫名	貸出金残高	前年比(%)
中南信用金庫	83,572	4.60
川崎信用金庫	1,198,844	4.06
横浜信用金庫	1,033,052	2.55
かながわ信用金庫	549,009	2.33
さがみ信用金庫	325,804	1.51
中栄信用金庫	169,184	1.08
平塚信用金庫	211,397	1.03
湘南信用金庫	685,950	0.75
合計	4,256,812	2.47

（単位：百万円、2020年3月末）

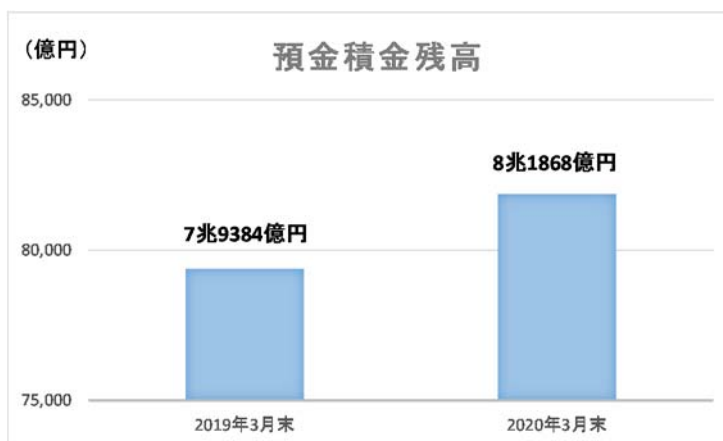
1. 預金積金残高 ～8金庫合計で8兆1868億円

2020年3月末時点の8金庫の預金積金残高の合計は8兆1868億4000万円となり、2019年3月末(7兆9384億3700万円)比で2484億300万円増加(3.13%増)した。8金庫すべてで預金積金を伸ばしている。

2020年3月末時点で、預金積金残高が1兆円を超えているのは、2兆56億円の「川崎」、1兆8384億円の「横浜」、1兆1905億円の「かながわ」、1兆1699億円の「湘南」の4金庫。

前年比で最も預金積金残高の増加幅が大きかったのは、「かながわ」(9.25%増)。以下、「横浜」(2.78%増)、「さがみ」(2.70%増)、「中南」(2.20%増)などが続いた。

各金庫では、少子高齢化の進行といった社会の変化を踏まえ、多様化する利用者のニーズや資金運用に対応するべく、幅広い預金商品を取り揃えていることが増加に寄与している。



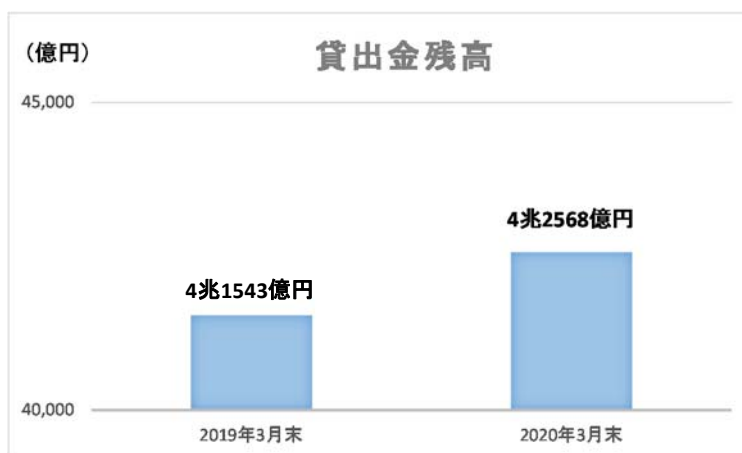
預金積金残高

金庫名	預金積金残高(百万円)		前年比 (%)
	2019年3月末	2020年3月末	
横浜信用金庫	1,788,682	1,838,404	2.78
かながわ信用金庫	1,089,682	1,190,503	9.25
湘南信用金庫	1,145,004	1,169,924	2.18
川崎信用金庫	1,970,453	2,005,658	1.79
平塚信用金庫	504,533	511,185	1.32
さがみ信用金庫	726,996	746,621	2.70
中栄信用金庫	411,934	416,778	1.18
中南信用金庫	301,153	307,767	2.20
合計	7,938,437	8,186,840	3.13

2. 貸出金残高 ～8 金庫合計で 4 兆 2568 億円

2020 年 3 月末時点の 8 金庫の貸出金残高の合計は 4 兆 2568 億 1200 万円となり、2019 年 3 月末（4 兆 1543 億円）比で 1025 億 1200 万円増加（2.47%増）した。

8 金庫すべてで貸出金残高を伸ばしており、中小事業者向け融資に積極的に取り組んでいることなどが貸出金の増加につながっている。



貸出金残高が 1 兆円を超えているのは、1 兆 1988 億円の「川崎」、1 兆 330 億円の「横浜」の 2 金庫となった。

前年比 2 ケタの伸びを記録した信金はなく、最も増加率が大きかったのは、「中南」(4.60%増)。以下、「川崎」(4.06%増)、「横浜」(2.55%増)、「かながわ」(2.33%増) などが続いた。

貸出金残高

金庫名	貸出金残高(単位:百万円)		前年比 (%)
	2019年3月末	2020年3月末	
横浜信用金庫	1,007,380	1,033,052	2.55
かながわ信用金庫	536,530	549,009	2.33
湘南信用金庫	680,835	685,950	0.75
川崎信用金庫	1,152,064	1,198,844	4.06
平塚信用金庫	209,248	211,397	1.03
さがみ信用金庫	320,973	325,804	1.51
中栄信用金庫	167,377	169,184	1.08
中南信用金庫	79,893	83,572	4.60
合計	4,154,300	4,256,812	2.47

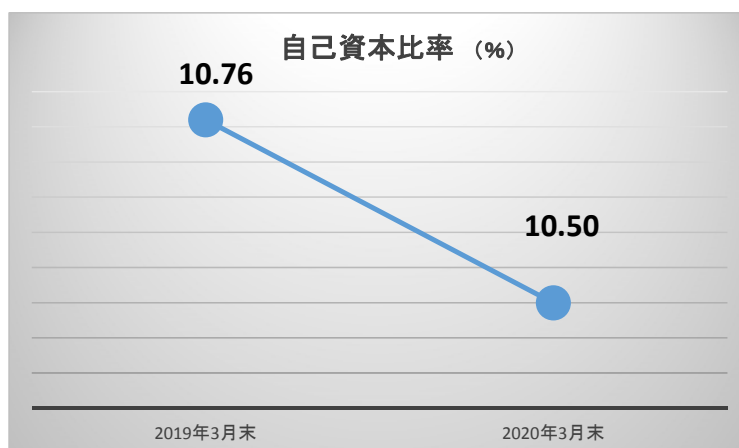
3. 自己資本比率 ～平均 10.50%と前年比 0.26 ポイント減

8 金庫の平均自己資本比率を見ると、2020 年 3 月末は 10.50%。2019 年 3 月末 (10.76%) 比で 0.26 ポイント減となり、8 金庫中 5 金庫で減少した。

2020 年 3 月末時点で 8 金庫中、最も自己資本比率が高かったのは「中栄」で 16.31%。次いで「中南」で 12.89%、「川崎」で 12.13%、「平塚」で 10.79%となり、自己資本比率が 10%を上回っているのは 8 金庫中 4 金庫となった。

前年比で増加したのは「平塚」(0.21 ポイント増)と「かながわ」(0.20 ポイント増)の 2 金庫にとどまった。

自己資本比率は、多くがほぼ横ばいないし微減となっており、低金利政策が長期化するなか、経営の健全性確保に苦慮している様子がうかがえる。



自己資本比率

金庫名	自己資本比率		前年比 (ポイント)
	2019年3月末	2020年3月末	
横浜信用金庫	9.97	9.72	▲ 0.25
かながわ信用金庫	7.22	7.42	0.20
湘南信用金庫	5.25	5.25	0.00
川崎信用金庫	12.52	12.13	▲ 0.39
平塚信用金庫	10.58	10.79	0.21
さがみ信用金庫	9.73	9.49	▲ 0.24
中栄信用金庫	17.10	16.31	▲ 0.79
中南信用金庫	13.71	12.89	▲ 0.82
平均	10.76	10.50	▲ 0.26

4. 金融再生法上の不良債権

8 金庫の金融再生法上の不良債権の総額をみると、2020 年 3 月末は 2134 億 9600 万円となり、2019 年 3 月末（2095 億 6500 万円）比で 39 億 3100 万円増加した。2020 年 3 月末時点で 8 金庫中 5 金庫が前年比増加、同 3 金庫が減少した。

前年比で最も増加したのは「川崎」の 90 億 4000 万円増。以下、「平塚」の 14 億 8200 万円、「中栄」の 6 億 5300 万円と続く。一方で、前年比で最も減少したのが「湘南」の 65 億 5800 万円減。以下、「かながわ」9 億 7100 万円減、「中南」9000 万円減と続く。

また、8 金庫の金融再生法上の不良債権に対する保全率をみると、100.00%で「中栄」がトップ。以下、「中南」98.77%、「横浜」95.26%、「川崎」93.46%と 8 金庫中 5 金庫が 90%を上回っている。一方で、「かながわ」74.70%、「平塚」70.92%、「湘南」67.27%の 3 金庫は 80%を下回った。

前年比で最も低下したのは、10.10 ポイント減の「平塚」。以下、「横浜」0.67 ポイント減、「川崎」0.38 ポイント減と続く。

金融再生法上の不良債権

金庫名	金融再生法上の不良債権(百万円)		
	2019年3月末	2020年3月末	前年比
横浜信用金庫	37,264	37,381	117
かながわ信用金庫	27,790	26,819	▲ 971
湘南信用金庫	60,562	54,004	▲ 6,558
川崎信用金庫	50,698	59,738	9,040
平塚信用金庫	10,766	12,248	1,482
さがみ信用金庫	16,870	17,128	258
中栄信用金庫	3,175	3,828	653
中南信用金庫	2,440	2,350	▲ 90
合計	209,565	213,496	3,931

保全率

金庫名	保全率(%)		
	2019年3月末	2020年3月末	前年比(ポイント)
横浜信用金庫	95.93	95.26	▲ 0.67
かながわ信用金庫	72.50	74.70	2.20
湘南信用金庫	62.63	67.27	4.64
川崎信用金庫	93.84	93.46	▲ 0.38
平塚信用金庫	81.02	70.92	▲ 10.10
さがみ信用金庫	89.04	91.40	2.36
中栄信用金庫	100.00	100.00	0.00
中南信用金庫	98.73	98.77	0.04
平均	86.71	86.47	▲ 0.24

5. まとめ

信用金庫は、主な取引先が営業エリアの中小企業や個人事業者、地域住民であり、地域経済を支える役割を果たしている。神奈川県内に本店を置く 8 信用金庫の総貸出金残高を見ても、全 8 金庫で前年から金額を伸ばしている。

菅内閣総理大臣は、自民党総裁選立候補時に、「将来的に地方の銀行は多すぎる」と発言し、合併特例法の施行を 11 月に控えるなか、地銀再編への注目度が高まっている。こうしたことから地銀の再編に注目が集まりがちだが、地域の金融機関という点では信用金庫も同様であり、今後再編への議論が高まることも想定される。

一方で、現在コロナ関連の緊急融資が積極的に行われている影響で、貸付金は増加が予想されていることに加え、預金についても外出自粛要請などの影響で個人の支出が抑えられていることから、例年以上に増加していることが予想される。

足下では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により県内信用金庫の営業エリアにおいても厳しい経営を余儀なくされている事業者は多く、各信用金庫も未曾有の事態に必死に対応している。信用金庫が地域に密着していることから、もし再編の機運が高まれば例年以上に各事業者に与える影響は大きく、動向が注目される。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 横浜支店 情報部

内藤 修

TEL 045-641-0380 FAX 045-641-2555

e-mail osamu.naitou@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。